

都議会議員の重視する選挙活動
2024年2月13日
津田塾大学総合政策学部総合政策学科

1. はじめに

政治家の選挙活動において最も重要視する項目は何によって変わるのか。特に有権者の前で直接「声」を届ける活動、または有権者がどこにいても議員について知ることのできる、視覚情報の作成のどちらを重視するのか。声を届けるか視覚情報を作成するかについては、年齢や所属政党、性別によって力をいれる項目が変わることが考えられる。本稿は、政治家が選挙活動において何を最も重視するかを年齢や所属政党などの変数も踏まえて分析する。

2. 先行研究

本節では、政治家の選挙活動における効果に関する先行研究を記す。

まず、三浦ら(2017)は、地方選挙における議員の選挙活動と有権者の心理についてその関係を明らかにするために、GPS を用いて議員が行った選挙活動の内容、時間、場所を記録し、有権者の接触数や好感度を調査した。その結果、街頭演説や練り歩きなどで有権者と近いところで接触していれば、候補者の好感度が増し、候補者への投票につながることで、選挙カーによる候補者名の連呼は、候補者への好感度の向上にはつながらないものの、候補者への投票にはつながることが明らかになった。

次に、小笠原(2018)は、インターネット上での選挙活動が合法化されてから、有権者のネット上の選挙活動への接触と、投票行動、選挙の重要争点の変化、政党支持の変化の3つの変数との関連を2013年と2016年の2年分を分析した。その結果、投票行動、政党支持に関してはそれぞれ有権者のネット上の選挙活動への接触との正の相関が見られ、その相関は2013年よりも2016年の方が強いことが明らかになった。一方、選挙の重要争点に関しては影響が見られなかった。

さらに、岡田(2021)は、選挙での立候補者の声の高低が得票に与える影響を調査し、声の高低が直接得票数に影響を与えることは見られなかった。しかし、選挙区の投票率が高いという特定の条件下では、候補者の属性や政策位置などで統制を行っても、声の低さが得票を増やしたことが確認された。

3. 仮説

三浦ら(2017)によると、有権者と候補者の直接的な接触や選挙カーでの名前の連呼が投票数が多く、したがって、演説会、街頭演説、選挙カーでの選挙活動を重視する議員ほど当選回数が多いことになる。一方で、小笠原(2018)は、インターネット上の選挙活動に有権者が接することで、投票行動、政党支持に影響を与えることを示した。ここから、直接「声」を届ける活動以外でも十分有権者に影響を与えることがわかる。さらに、2013年と比べて2016年の方が強い正の相関が見られたことから、2023年現在、さらに相関が強くなっていることも考えられる。また、SNSでの活動が役に立っていると考えている者は、有権者との直接的な接触よりも、効果を感じていて、演説会、街頭演説、選挙カーでの選挙活動を重視しなくなるのかもしれない。

加えて、岡田(2021)は声の高低が直接得票数に影響を与えることがないことを明らかにし、これは主に特定の性別によって「声」を直接届ける活動がより有利になることは考えにくいことを示している。ここから、選挙区の投票率が特段高くない通常の選挙の状況では、性別が重視する選挙活動の種類に与える影響はないと考えられる。

以上のことより、選挙活動において「声」を直接届ける活動（演説会、街頭演説、選挙カー）を重視するのかは、SNS が政治活動に役に立っていると考えているか否かが最も影響があり、次に当選回数、所属会派との相関が考えられ、性別、年齢に関しては相関が見られない、という仮説を立てることができる。

4. データ、変数、分析手法

以上の仮説を検証するため、本稿では東京都議会議員 119 名(調査時)を対象に行った「津田塾大学中條研究室 2023 年度第 6 回東京都議会議員調査」の結果を用いて分析を行う。実施期間は 2023 年 10 月 27 日から 2023 年 11 月 30 日であり、回答数は 74、回収率は 62.3%であった。使用する質問の中で無回答であったものは除外する。分析に使用する変数を下の表 1 に示す。また、以下より小数点第二位を四捨五入した値は約で示す。

表 1：使用する変数

変数	調査票の質問	尺度
Q13	あなたが選挙活動において最も重要視する項目は以下のうちどれですか。1つお選びください。	演説会、街頭演説、選挙カーのいずれか→0、それ以外→1としてカテゴリカル変数に整えた。
性別		女性→0、男性→1としてカテゴリカル変数に整えた。
年齢		連続変数
当選回数		連続変数
Q19a	一般的に SNS は政治活動に役立っていると思いますか。0(役に立っていない)から10(役に立っている)の数字の中で、最もよく当てはまるものをお答えください。	連続変数
所属会派		ミライ会議、都議会公明党、都民ファーストの会 東京都議団、東京都議会自由民主党、東京都議会立憲民主党、本共産党東京都議会議員団、無所属

Q13 に関して、最も重視する選挙活動として演説会、街頭演説、選挙カーのいずれかを回答した議員は 29 名(全体の約 40.3%)、それ以外を回答した議員は 43 名(全体の約 59.7%)であった(n=72)。性別に関しては、女性 25 名(約 36.8%)、男性 43 名(約 63.2%)であった(n=68)。以下に、年齢(n=67)、当選回数(n=68)、SNS の評価(n=70)の基礎値、ヒストグラムを示す。

表 2 : 年齢の基礎値

平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
53.63	53	31	71	10.01

図 1 : 年齢のヒストグラム

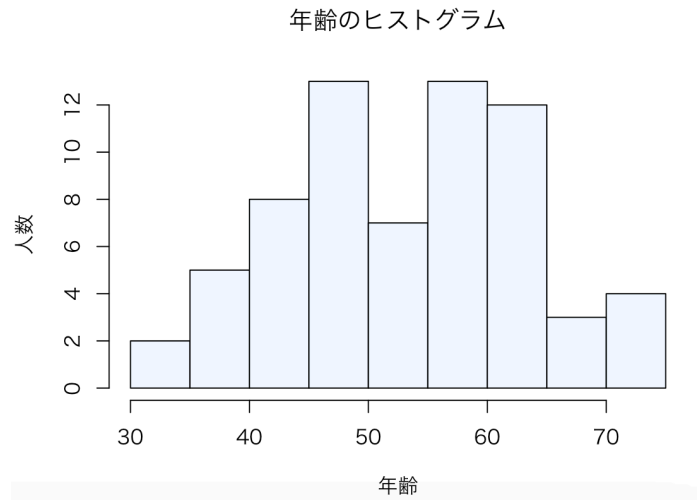


表 3 : 当選回数 of 基礎値

平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
2.69	2	1	8	1.70

図 2 : 当選回数のヒストグラム

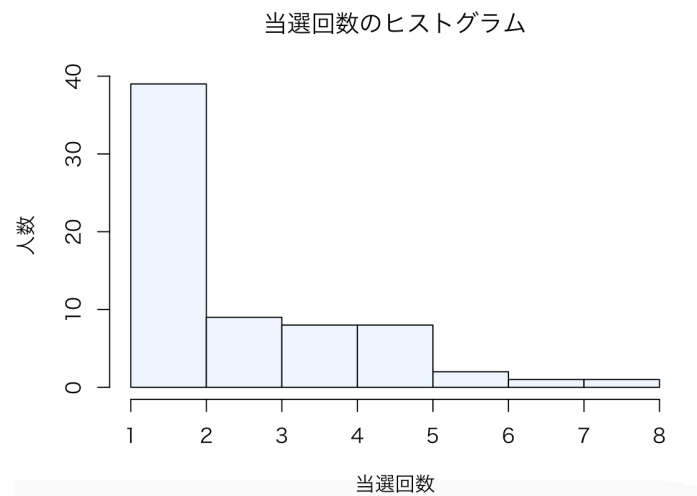
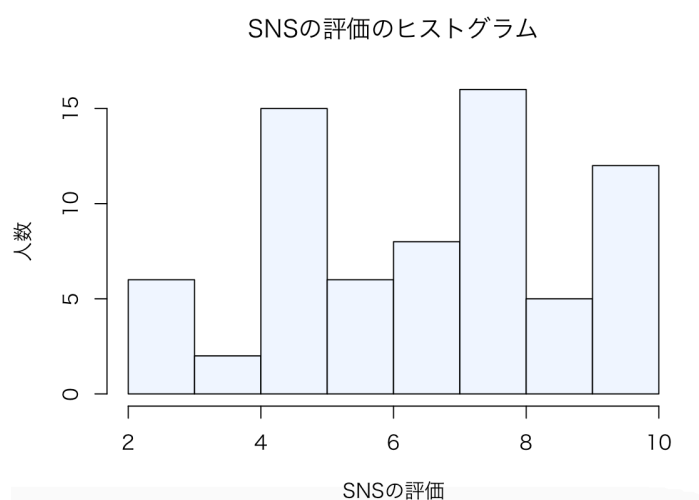


表4：SNS の評価の基礎値

平均値	中央値	最小値	最大値	標準偏差
6.89	7	2	10	2.28

図3：Q19a の回答のヒストグラム



また、所属会派(n=68)の内訳は、ミライ会議4名、都議会公明党8名、都民ファーストの会 東京都議団15名、東京都議会自由民主党12名、東京都議会立憲民主党9名、本共産党東京都議会議員団16名、無所属4名であった。

重視する選挙活動を目的変数、性別、年齢、当選回数、SNSの評価、所属会派を説明変数として分析を行う。

5. 分析結果

(1)重視する選挙活動と性別について

重視する選挙活動と性別のクロス表を表5に示す。

表5：二つの変数のクロス表（頻度）

	女	男
演説会、街頭演説、選挙カー	11	17
それ以外	14	26

演説会、街頭演説、選挙カーを重視する女性は11名、男性は17名であり、それ以外の選挙活動を重視する女性は14名、男性は26名であった。

目的変数を重視する選挙活動、説明変数を性別としてロジスティック回帰分析を行った。回帰分析における仮説は以下の通りであり、表6に結果を示す。

帰無仮説：重視する選挙活動と性別に有意差はない

対立仮説：重視する選挙活動と性別に有意差がある

表6：ロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片	0.241	0.403	0.599	0.549
性別	0.184	0.510	0.361	0.710

AIC: 96.009

n=68

性別のp値は0.05を上回り、有意水準95%で帰無仮説が採択された。したがって、性別は演説会、街頭演説、選挙カーの、有権者に直接声を届ける活動を重視するか否かに有意差は見られなかった。

(2) 重視する選挙活動と年齢について

演説会、街頭演説、選挙カーを重視する人の平均年齢は約56.3歳、それ以外を重視する人の平均年齢は約51.9歳であった。以下にロジスティック回帰分析の仮説と結果を示す(表7)。

帰無仮説：重視する選挙活動と年齢に有意差はない

対立仮説：重視する選挙活動と年齢に有意差がある

表7：ロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片	2.910	1.472	1.977	0.048
年齢	-0.047	0.027	-1.751	0.080

AIC: 91.100

n=67

年齢の p 値は 0.05 を上回っており、有意水準 95%では帰無仮説が採択される。しかし、有意水準 90%で帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択される。したがって、有意水準 90%では重視する選挙活動と年齢に有意差があると言える。回帰係数は負であるため、年齢が上がるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が上がる可以说る。

(3) 重視する選挙活動と当選回数について

演説会、街頭演説、選挙カーを重視する人の平均当選回数は約 3.3 回、それ以外を重視する人の平均当選回数は約 2.3 回であった。以下にロジスティック回帰分析の仮説と結果(表 8)を示す。

帰無仮説：重視する選挙活動と当選回数に有意差はない

対立仮説：重視する選挙活動と当選回数に有意差がある

表 8：ロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片	1.440	0.514	2.805	0.005
当選回数	-0.396	0.162	-2.445	0.010

AIC: 89.403

n=68

当選回数の p 値は 0.05 を下回り、有意水準 95%で帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択された。したがって、重視する選挙活動と当選回数に有意差があると言える。回帰係数は負であるため、当選回数が増えるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が上がる可以说る。

(4) 重視する選挙活動と SNS の評価について

演説会、街頭演説、選挙カーを重視する人の SNS の評価の平均は約 6.2、それ以外を重視する人の SNS の評価の平均は約 7.3 であった。以下にロジスティック回帰分析の仮説と結果(表 9)を示す。

帰無仮説：重視する選挙活動と SNS の評価に有意差はない

対立仮説：重視する選挙活動と SNS の評価に有意差がある

表 9：ロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片	-1.160	0.804	-1.444	0.149
SNSの評価	0.221	0.113	1.955	0.051

AIC: 94.914

n=70

SNS の評価の p 値は 0.05 を上回り、有意水準 95%で帰無仮説が採択された。したがって、SNS の評価によって演説会、街頭演説、選挙カーの、有権者に直接声を届ける活動を重視するかいなかに有意差は見られなかった。ただし、有意水準 90%では、p 値は 0.10 を下回っているため、対立仮説が採択され、SNS の評価によって重視する選挙活動に有意差が見られると言える。その場合、回帰係数は正であるため、SNS の評価が上がるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が下がることが言える。

(5) 重視する選挙活動と所属会派について

所属会派に関しては、ミライ会議を基準として、会派ごとに有意差があるか、ロジスティック分析を行って検証した。以下に、仮説と結果を示す(表 10)。

帰無仮説：重視する選挙活動と所属会派に有意差はない

対立仮説：重視する選挙活動と所属会派に有意差がある

表 10：ロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片(ミライ会議)	-1.099	1.155	-0.951	0.341
都議会公明党	0.588	1.366	0.430	0.667
都民ファーストの会 東京都議団	1.504	1.269	1.185	0.236
東京都議会自由民主党	2.197	1.333	1.648	0.099
東京都議会立憲民主党	1.792	1.354	1.323	0.186
本共産党東京都議会議員団	1.609	1.265	1.272	0.203
無所属	1.099	1.528	0.719	0.472

AIC: 100.940

どの所属会派も p 値は 0.05 を上回り、有意水準 95% で帰無仮説が採択された。したがって、所属会派によって演説会、街頭演説、選挙カーの、有権者に直接声を届ける活動を重視するか否かに有意差は有意水準 95% では見られなかった。しかし、自由民主党の p 値は 0.10 を下回り、有意水準 90% では対立仮説が採択される。したがって、有意水準 90% では、ミライ会議と自由民主党で重視する選挙活動に有意差が見られ、自由民主党の回帰係数が正であるため、自由民主党の方がミライ会議より「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が下がることが言える。

(6) 多変量ロジスティック分析

目的変数を重視する選挙活動、説明変数を性別、年齢、当選回数、SNS の評価の回答、所属会派として、多変量ロジスティック回帰分析を行なった。以下に結果を示す(表 11)。

表 11：多変量ロジスティック回帰分析

	回帰係数	標準誤差	z値	p値
切片	-1.338	2.426	-0.551	0.581
性別	-0.228	0.808	-0.283	0.777
年齢	0.005	0.037	0.125	0.901
当選回数	-0.447	0.214	-2.087	0.037
SNS の評価	0.200	0.140	1.429	0.153
都議会公明党	1.268	1.609	0.788	0.431
都民ファーストの会 東京都議団	1.557	1.400	1.112	0.266
東京都議会自由民主党	2.434	1.535	1.586	0.113
東京都議会立憲民主党	1.333	1.522	0.876	0.381
本共産党東京都議会議員団	1.610	1.394	1.154	0.248
無所属	0.128	1.650	0.078	0.938

AIC: 95.450

n=65

当選回数のみ p 値が 0.05 を下回り、当選回数によって演説会、街頭演説、選挙カー等の、有権者に直接声を届ける活動を重視するか否かに有意水準 95% で有意差が見られた。当選回数の回帰係数は負であるため、当選回数が増えるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が増えることが言える。一方で、単回帰分析では有意水準 95% で重視する選挙活動に有意差が見られた年齢、そして有意水準 90% で重視する選挙活動に有意差が見られた SNS の評価、所属会派における自由民主党は、多変量でコントロールする

と有意水準 95%では有意とは言えなくなり、当選回数のみが有意であるという結果となった。

6.結論と含意

本稿では、選挙活動において最も重要視する項目に関して、特に有権者の前で直接「声」を届ける活動、または有権者がどこにいても議員について知ることのできる、視覚情報の作成のどちらを重視するのかを明らかにする目的で分析を行った。選挙活動において「声」を直接届ける活動（演説会、街頭演説、選挙カー）を重視するかどうかは、SNSが政治活動に役に立っていると考えているか否かが最も影響があり、次に当選回数、所属会派との相関が考えられ、性別、年齢に関しては相関が見られない、という仮説を立て、分析の結果、年齢と当選回数は、有意水準 95%で、統計的に有意であり、SNS の評価、所属会派における自由民主党所属という属性は有意水準 90%で、統計的に有意であった。年齢、当選回数ともに回帰係数は負であり、年齢が上がるほど、または当選回数が増えるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が上がる可以说。一方で、SNS の評価は回帰係数が正であり、SNS の評価が上がるほど、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が下がることが言える。また自由民主党に所属する議員はミライ会議に所属する議員と比べて、「演説会、街頭演説、選挙カー」を重視する可能性が下がる結果が得られた。さらに重回帰分析の結果、当選回数のみ p 値が 0.05 を下回り、有意水準 95%で、統計的に有意である。したがって、最も「演説会、街頭演説、選挙カーを最も重視するか否か」には当選回数が最も影響力を持つと言える。

仮説では重視する選挙活動と相関が見られないとした性別、相関が見られるとした当選回数に関しては、仮説通りの結果が導かれた。しかし、仮説では重視する選挙活動と相関が見られないとした年齢が分析の結果有意差が見られ、反対に仮説では最も相関が見られるとした SNS の評価と相関が見られるとした所属会派は、有意水準 95%では相関が見られなかった。年齢が重視する選挙活動の内容に影響を与えることに関しては、選挙活動に SNS が用いられるようになったのは 2013 年の法改正以降であることが関係する可能性がある。SNS の評価が重視する選挙活動と相関が見られなかったことに関しては、SNS への評価は高いが、それ以上に有権者に直接声を届ける選挙活動を重視している議員の存在が考えられる。さらに、所属会派が重視する選挙活動と相関が見られなかったことに関しては、会派内で選挙活動の内容が共通するよう思われたが、実際は個人の年齢や当選回数の属性に影響を受ける可以说。

参考文献

岡田陽介、2021、「候補者の「声」の高低と得票率 —2014 年衆議院選挙小選挙区立候補者の分析—」、『応用社会学研究』No.63pp.97-112

小笠原盛浩、2018、「ネット選挙運動の「効果」は変化したか？ —2013 年参院選と 2016 年参議院の定量的比較分析」、『社会学部紀要』第 49 巻第 2 号, 2018, pp.105-120

三浦麻子、稲増一憲、中村早希、福沢愛、2017、「地方選挙における有権者の政治行動に関連する近接性の効果:空間統計を活用した兵庫県赤穂市長選挙の事例研究」、『社会学心理研究』第 32 巻第 3 号 pp.174-186